令和２年度南予地方局予算の実施状況（R3.3.31 現在）

１　**予算事項名**　　新たな果樹産地づくり推進事業費
２　**事 業 期 間**　　令和元年度～令和３年度
３　**所　　管**　　南予地方局産業経済部産業振興課産地戦略推進室
　　南予地方局産業経済部八幡浜支局産地戦略推進室
４　**事 業 概 要**

南予地域の農業を魅力ある産業として次世代へ繋げるため、アボカド、うめ、フィンガーライム及び川田温州を産地づくりビジョンの新規戦略品目とし、生産振興から出口戦略をモデル的に取り組み、新たな産地づくりや産地の再興を推進した。

	令和２年度
予算額	2,805 千円

５　**事業内容**

（１）アボカドの新たな産地化推進事業（予算額 650 千円）

愛南町でのアボカドの産地化・ブランド化を図るため、NPO 法人や愛南町と連携しながら、栽培技術の確立、町内外での認知度向上、新規栽培者の確保等に取り組んだ。

新規栽培者への栽培指導

①アボカド産地化推進連絡会の開催

アボカド産地化推進連絡会を開催し、R1 年度活動実績報告と R2 年度活動計画について協議した（９月）。

②栽培技術の確立

新梢の摘心の違いによる落果低減の効果について調査した。調査結果と既存技術を体系的に取りまとめて栽培指針（案）を作成した（６月～２月）。

③新規栽培者の確保・育成

新規栽培者が計３ａで試験栽培を開始し、 NPO 法人と連携して個別巡回により栽培指導を実施した。また、栽培候補者を対象にアボカド現地研修会（11/19）を開催し、園地見学を実施した（参加者のうち２戸が令和３年度に試験栽培に取組む予定）。

④小学生、高校生への認知度向上対策

愛南町立柏小学校の児童 22 人を対象にアボカド教室を開催し、アボカドの魅力等について理解を深めた。併せて、南宇和高等学校と関係機関等との協働による「アボカド栽培プロジェクト活動」を 11 月からスタートし、収穫作業等を体験した。

（２）うめの里産地再興支援事業（予算額 757 千円）

収益･収量が低迷し産地の存続が危ぶまれる松野町のうめについて、栽培技術の改善、加工品の開発と販路開拓及び新規栽培農家の育成により産地の再興に取り組んだ。

①うめの里再興検討会の開催

松野町梅振興会、(株)松野町農林公社、町、県によるうめの里再興検討会を書面開催し、うめの里松野再興ビジョンの修正及び今年度の活動計画を検討した（６月）。

うめ栽培体験研修会

②栽培技術の改善

収穫時の作業効率向上のための収穫ネット設置方法、春季の摘心による冬季せん定の労力軽減効果に関する調査を実施した。

③新規栽培農家の確保育成

梅振興会員を対象に聞き取りを行い、栽培状況の調査を行うとともに、園地の承継や新規栽培者が利用可能な園地等の情報を収集し（８月～１月）、町と対応を検討。若手農業者への重点的な指導を行うこととし、個別指導を実施した。

④うめ加工品の開発・販売活動の実施

北宇和高校の生徒を対象に「うめ加工研修会」を開催し（７月 14 日）、うめジャムを試作した（令和３年度販売開始予定）。その後、うめジャムの製造・販売を行う生徒を対象に「うめ栽培体験研修会」を実施し、うめの栽培方法やその魅力について理解を深めた（２月８日）。

また、「道の駅虹の森公園まつの」とうめ加工品開発について協議、試作を重ね、梅肉ペーストを使用した「まるごと松野ピザ」が完成し、販売開始した（12 月～）。

（３）フィンガーライム産地づくり推進事業（767 千円）

フィンガーライムは需要の高まりが見込まれる一方、国産果実の認知度は低く、管内先駆的農家１戸でしか栽培されていないことから、まずは栽培意欲の喚起を強く後押しする動きを需要側から起こすため、市場評価や新規需要の高まりを図る販売拡大活動を展開し、新たな愛媛ブランドの産地化を目指して取り組んだ。

①販売拡大活動

総合食品商社への紹介等により、食感、香りとも国産果実への期待が高いことが分かった。高級飲食店等からの問合せや取扱店舗が増加しており、R2 年の新規取扱店舗数は 10 件となった。また、八幡浜市内飲食店と料理活用法を検討し、地元での需要の拡大を図った。

②フィンガーライム産地化検討会

生産者及び生産候補者組織の「フィンガーライム産地化推進協議会」（10 名）、関係機関担当者による検討会を３回開催。生産販売や施設整備の情報共有を図った。

③安定生産に向けた栽培技術等の確立

みかん研究所と栽培検討会(5/27)を開催し、基礎生態についての情報を共有した。また、産地化を進めている宮崎県を視察し(11/5)、栽培技術及び販路について情報収集活動を行った。さらに、補助事業(県単)を活用した施設整備においては、交付申請の支援等を行い、5 名が 14ａ（７棟）で、施設整備が完了した。現収穫可能面積は 2a で、次年度も新規栽培者による面積拡大が見込まれる。

検討会で新植のポイントを確認

（４） 地域特産「川田温州」の高品質連年安定生産事業（631 千円）

川田温州は、八幡浜市向灘地区で発見された地元品種であり、食味は極めて良好で、近年温暖化の影響で問題となっている浮皮の発生もほとんどない。しかし、隔年結果性が極めて大きく連年安定生産が難しいため、産地化には至っていない。そこで、連年結果に有効な半樹交互結実技術を実証・普及することで、農家所得の向上と産地の育成を図った。

①川田温州生産推進協議会の開催

川田温州生産推進協議会員（20 名）を対象に、栽培技術研修会を 4 回開催。

②高品質連年安定生産技術の検証

モデル園を 3 カ所設置し、高品質連年生産に努めた。また、花芽管理・半樹別摘果・仕上げ摘果手法について、研修会で技術普及を図り、半樹交互結実に 1.7ha で取り組んだ。

貯蔵に関しては、被覆資材 4 資材(新聞包み・タイベック包み・2 個単位の MA 資材及び通常ナイロン袋)による果実品質を比較・検討したが、明確な結果が出なかった。

花芽管理について研修会で技術指導

③出口戦略の強化

コロナの影響により、首都圏での消費動向調査ができなかったため、地元消費者に果実を知ってもらうため、八幡浜市内で開催されたイベントにおいて、食味や認知度に関するアンケート調査を実施するとともに PR パンフレットを配布し、地元で生まれた温州みかんであることを紹介した。(1/8)。